

Title	中國人ノ骨及關 結核ノ統計的觀察
Author(s)	橋本, 松之助
Citation	日本外科宝函 (1930), 7(appendix): 107-114
Issue Date	1930-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/200609
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

中國人ノ骨及關節結核ノ統計的觀察

滿洲醫科大學外科學教室(松井教授)

醫學士 橋 本 松 之 助

Über die Knochen -u. Gelenktuberkulose der Chinesen.

Von

Dr. Mat. Hashimoto.

[Aus der chirurgischen Abteilung der mandschurischen medizinischen Hochschule
zu Mukden. (Vorstand, Prof. Dr. T. Matsui.)]

目 次

- | | |
|------------------|------------------|
| 第一 骨及關節結核ノ頻度 | 第五 骨及關節結核ト季節トノ關係 |
| 第二 性別ニ依ル罹病率 | 第六 臨床的觀察 |
| 第三 骨及關節結核ト年齡トノ關係 | 第七 結論 |
| 第四 骨及關節結核ノ部位的關係 | |

余ハ大正8年11月ヨリ昭和4年10月ニ至ル、滿10年間ニ、滿洲醫科大學附屬醫院外科ニ於ケル、中國人外來患者ニ就キ、骨及關節結核ノ統計的觀察ヲ試ミタリ。

第一 骨及關節結核ノ頻度

最近10年間ニ於ケル當附屬醫院外科外來ニ於ケル、中國人患者數ハ、總計10652名ニシテ、ソノ内骨及關節結核患者數ハ、832名、即、外來患者數ノ7.81%ニシテ、コレヲ更ニ骨及關節ニ區別スレバ骨結核患者數ハ474名、即4.44%、關節結核患者數ハ358名即3.36%ヲ示セリ。尙コレヲ各年次ニ就イテ見ルー、ソノ結果ハ第1表ニ示スガ如シ。

第 一 表

年	外來患者數	結核患者數	%
大正9年	737	56	7.6
大正10年	692	54	7.8
大正11年	990	72	7.3
大正12年	1136	91	8.0
大正13年	1292	101	7.8

骨或ハ、關節ニ於ケル結核ニ關シテハ、

三輪、田代、寺本、武藤、Alfer, Krause, Jaffé, König 等ノ研究アリ。コレヲ報告セル罹病率ハ5.5%乃至1.6%ニシテ、就中武藤氏ノ中國人ノ骨及ビ關節結核ノ罹病率5.5%ヲ以テ最大トセリ。然ルー、余ノ場合ニ於テハ、コレヨリモ更ニ大ニシテ7.8%ノ罹病率ヲ示セリ。コレ恐ラク中國(特ニ滿

大正14年	1372	106	7.7
大正15年	1192	72	6.0
昭和2年	894	69	7.7
昭和3年	1093	107	9.8
大正8年 昭和4年	1254	104	8.3

洲地方)ニ於ケル衛生設備ノ不完全ナルハ
勿論、又更ニ個人ノ衛生的知識僅少ニシテ
ソノ生活状態ノ不衛生的ナル爲メナラント
ハ想像ニ難カラズ。

第二 性別ニ依ル罹病率

骨及ビ、關節結核ノ男子ニ多クシテ、女

子ニ少キハ諸家ノ意見ノ一致スル所ニシテ、三輪ハ577名中男359名、女218名、田代ハ
207名中男121名、女86名、寺本ハ男女ノ比ハ3對1.26ヲ示シ、武藤ハ225名中男135名、
女90名ナリ。更ニコレヲ泰西ノ文献ニ求ムルニ、Alfer ハ男1023名、女729名、Jafféハ
男女ノ比3對2.3、Billroth u. Menzel ハ男61.5%、女38.5%、Fassbender ハ男58.5%、女
41.5% ナルヲ報告セリ。而シテ、余ノ場合ニ於テハ、結核患者832名中男ハ597名即チ
結核患者數ノ71.8%、外來患者數ノ5.6%ニ當リ。女ハ235名即チ、結核患者數ノ28.2%
外來患者數ノ2.2%ヲ示セリ。

如斯余ノ場合ニ於テモ亦、男子ノ罹病數大ニシテ、男女結核患者數ノ比ハ2.5對1ナ
リ。コレヲ如上諸家ノ報告ニ比スルニ、余ノ統計ニ於テハ男子ノ罹病數女子ニ比シ遙
カニ大ナリ。

更ニコレヲ各年次ニヨリ、男女別ニ、各外來患者數ニ對スル結核患者數ヲ見ルニ、

第 二 表

年	外來患者數	結核患者數	外來患者數 ニ對スル%
大正9年	男女 650	40	6.2
	87	16	18.4
大正10年	男女 585	38	6.5
	107	16	15.0
大正11年	男女 877	51	5.8
	113	21	18.6
大正12年	男女 970	67	6.9
	166	24	14.5
大正13年	男女 1110	80	7.2
	182	21	11.5
大正14年	男女 1144	73	6.4
	228	33	14.5
大正15年	男女 984	48	4.9
	208	24	11.5
昭和2年	男女 742	48	6.5
	152	21	13.8
昭和3年	男女 907	75	8.3
	186	32	17.2
大正8年 昭和4年	男女 996	77	7.7
	258	27	10.5

ソノ成績ハ第2表ニ示スガ如シ。コノ

表ニ依レバ、外來患者數、及ビ、結核
患者數ハ女子ヨリモ、男子ニ於テ遙カ
ニ多ケレドモ、男女各外來患者數ニ對
スル結核患者數ノ百分率ヲ求ムルニ、
男子ハ4.9%—8.3%、平均6.6%ニシテ
女子ハ10.5%—18.6%、平均14.5%ヲ
示セリ。然レドモ、コノ成績ノミニヨ
リテ單ニ女子ノ骨及關節結核ノ罹患率
一般ニ大ナリトハ謂ヒ得ザル可シ。

第三 骨及關節結核ト年齡

トノ關係

結核ト年齡トノ關係ニ就イテハ、多
少ノ相違アルモ、幼年者ニ多キハ諸家
ノ報告、意見ノ一致スル所ナリ。即田

代ハ男ニ於テハ6—10歳, 女ニ在リテハ1—5歳ニ最も多ク, 三輪ハ11—20歳, 寺本ハ1—20歳, 武藤ハ16—25歳ニ於テ最も多キヲ報告セリ。ソノ他 Alfer ハ男ハ1—5歳, 女ハ5—10歳, Billroth ハ1—20歳, Watson Cheyne ハ1—5歳, Jaffé ハ1—10歳ニ於テ最も多シトセリ。

然レドモ, 余ノ場合ニ於テハヤ趣ヲ異ニシ, 骨及關節結核患者832名中最モ多キハ21—30歳ニシテ306名即チ結核患者數ノ36.7%ヲ占メ, コレニ次イデハ11—20歳ノ256名, 次ハ1—10歳ノ136名ノ順序ナリ。

第 三 表

年 齡	1—10	11—20	21—30	31—40	41—50	51—60	計
部 位							
股 關 節	26	30	25	5	1		87
膝 關 節	17	27	16	4	3	1	68
足 關 節 (足趾關節)	18	38	32	8	2	1	99
肩 胛 關 節		5	6	3	2		16
肘 關 節	2	18	19	4	2	1	46
手 腕 關 節 (手掌關節)	3	21	10	4	1	1	40
胸 鎖 關 節		1	1				2
計	66	140	109	28	11	4	358

更ニ骨, 關節ニ就キ各別ニ年齢の關係ヲ詳述センニ, 第3表ニ示スガ如ク關節ニ於テハ11—20歳最も多ク, 關節結核患者358名中140名ヲ占メ, 次ハ21—30歳ノ109名ニシテ

第 四 表

年 齡	1—10	11—20	21—30	31—40	41—50	51—60	計
部 位							
上 膊 骨	1	3	2				6
桡 骨		1					1
尺 骨	1	1	2	1			5
指 骨	7	3	4	1	2		17
大 腿 骨		1	3	1			5
脛 骨	1	3	2				6
腓 骨	2	1	2				5
脊 推 骨	49	52	77	28	11	1	218
肋骨・胸骨・鎖骨	6	39	81	19	8	10	163

骨 盤	1	6	20	4	2	2	35
頭蓋骨・顔面骨		4		1			5
多 發 性	2	2	4				8
計	70	116	197	55	23	13	474

第三位ハ1—10歳ノ66名ナリ。而シテ骨ニ於テハ結核患者474名中最モ多キハ21—30歳—シテ197名、コレニ次イデハ11—20歳ノ116名ナリ(第4表)。

如斯中國人ニ於ケル、骨及ビ關節結核ノ諸家ノ報告ニ比シヤヤ高年齢ニ來ルハ、一般ニ中國人ハ只ニ結核ノミナラズ、總テノ病氣ニ對スル知識少ク、且又、醫學ノ進歩セザル、所謂漢方醫ナルモノ今尙、相當勢力ヲ有スルヲ以テ、患者ニ大ナル苦痛或ハ不便ナキ時ハ、醫師ノ治療ヲ受ケザルカ、或ハ漢方醫ノ治療ヲ受クル結果、吾ガ外來ニ來ルコト、著シク遅ルルコトモ亦ソノ一因ナラン。結核ナラザル他ノ疾患、例ヘバ腫瘍ノ如キモ、日本人ニ於テハ到底想像セザルガ如キ大ナル狀態ヲ見ルコト稀ナラズ。

第四 骨及關節結核ノ部位的關係

部位の關係ニ就イテ關節ニ於テハ、田代、寺本、武藤、Jaffé, Watson, Cheyne, Lannelogue ハ何レモ股關節結核ヲ以テ最高位トセルニ、Alfer ハ膝關節結核ヲ以テ第一位トシ結核患者741名中膝關節結核患者281名ナリシヲ報告セリ。然ルニ余ノ例ニ於テハ、足關節ヲ以テ第一トナシ關節結核患者358名中男73名女、26名、計99名—シテ、關節結核患者數ノ27.6%ヲ占メ、コレニ次イデハ股關節ノ87名、次ニ膝關節ノ68名ノ順序ナリ(第3, 5表)。

第 五 表

部位 性	股關節	膝關節	足關節 (足趾關節)	肩胛關節	肘關節	手腕關節 (手掌關節)	胸鎖關節
男	68	48	73	10	30	22	1
女	19	20	26	6	16	18	1
計	87	68	99	16	46	40	2

第 六 表

部位 性	上膊骨	橈骨	尺骨	指骨	大腿骨	脛骨	腓骨	脊椎骨	肋骨・胸骨・鎖骨	骨盤	頭蓋骨 顔面骨	多發性
男	4	1	3	12	3	3	5	158	120	24	5	7
女	2		2	5	2	3		60	43	11		1
計	6	1	5	17	5	6	5	218	163	35	5	8

而シテ骨結核ニ關シテハ、如上諸家ノ報告一致シ何レモ脊椎骨ヲ以テ第一位トセリ。余ノ場合ニ於テモ亦、ソノ百分率ニ於テハ諸家ノ報告ト多少ノ差違ヲ認ムルトハ雖モ最モ多キハ脊椎骨ニシテ骨結核患者474名中男158名、女60名、計218名ニシテ、骨結核患者數ノ45.9%ヲ示シ、第二位ハ肋骨ニシテ163名、第三位ハ骨盤ノ35名ナリ（第4、6表）。

第七表

部 位	患 者 數
頸 推	9
胸 推	82
腰 推	98
胸 腰 推	29

更ニ脊椎_Lカリエス₇ヲ頸部、胸部、腰部及ビ胸腰部ニ區別シ、各部ニ於ケル患者數ヲ見ルニソノ結果第7表ノ如シ即チ腰椎ヲ以テ最モ多シトナシ、コレニ次イデハ胸椎ナリ。

寺本、Jaffé ハ何レモ胸椎_Lカリエス₇最モ多キヲ報告セルモ、余ノ場合ニ於テハ反對ノ結果ヲ示セリ（第7表）。

第五 骨及關節結核ト季節トノ關係

時季ニ關シテハ、發病時ヲ以テ標準トナスコト當然ナリ。

然レドモ結核タルヤ慢性ノ經過ヲ取り、且又、極初期ニ在リテハ諸種ノ症狀ヲ感ズル

第八表

月 部位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
股關節	4	7	5	20	9	8	11	7	5	2	4	5
膝關節	4	7	5	3	9	7	5	12	3	5	6	2
足關節 (足趾關節)	5	10	7	18	17	11	4	8	8	2	5	4
肩胛關節	2			2	3	2	2	2	1		2	
肘關節	3	1	4	9	11	3	3	9	1	2		
手腕關節 (手掌關節)	3	2	3	8	7	7	6	1		1	1	1
胸鎖關節				2								
計	21	27	24	62	56	38	31	39	18	12	18	12

コト少ク、爲メニ患者ノ訴フル所ニヨリ發病時ヲ正確ニ決定スルコト誠ニ困難ナリ。故ニ余ハ初診日ヲ以テ標準トシ、季節トノ關係ヲ觀察セリ。

第九表

月 部位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上 膊 骨	1		1	1		1		1		1		
橈 骨									1			

尺 骨					1	1				1		2
指 骨	2	2	3		4	5	1					
大 腿 骨	1				1			1	1			1
脛 骨		2			1		1	1	1			
腓 骨				1			1	2			1	
脊 推 骨	9	7	28	23	41	19	30	16	8	15	14	8
肋 骨・胸 骨・鎖 骨	12	9	13	28	14	16	20	14	7	8	10	12
骨 盤	2	1	2	2	3	1	6	7	5	2	3	1
頭 蓋 骨					2		2	1				
顔 面 骨												
多 發 性				2	1			3			1	1
計	27	21	47	57	68	43	61	46	23	27	29	25

關節ニ於テハ、(第8表)結核患者最も多キハ4月ニシテ、コレニ次イデハ5月、8月ナリ。而シテ骨(第9表)ニ在テハ、5月、7月、4月ノ順序ナリ。コレヲ要スルニ4,5,6,7,8月ノ候ニ多キヲ示セリ。

コレ即、冬季ニ於テハ寒氣嚴シク、且又、交通不便等ノ故ヲ以テ、醫師ノ診療ヲ乞フコト少キニ依ル可ク、又冬季ニ於ケル不衛生的生活ノ結果病勢更ニ著シク進行スルコトモ亦如上ノ季節ニ患者多キ所以ナル可シ。

第六 臨 床 的 観 察

既ニ述ベシ如ク一般ニ、當地方ニ於ケル中國人ハ、ソノ生活狀態ノ不衛生的ニシテ且又、醫學的知識ニ乏シキヲ以テ、例ヘ結核ニ侵サルトモ、初期ニ於テ、苦痛或ハ不便ナキ時ハ、特ニ醫師ノ診療ヲ受ケズ、病勢進行シテ苦痛ヲ生ズルニ至リテ始メテ診ヲ求ムルハ、彼等ノ常トスル所ナリ。故ニ強度ノ腫脹、潰瘍、瘻孔、或ハ又、寒性膿瘍等ヲ有シ、臨床上結核ノ診斷ヲ下シ得ル場合大多數ナリ。例ヘ疑ハシキモノト雖モ、レントゲン像ハ殆ンド總テニ於テ陽性ト云フモ過言ニ非ズ。

從ツテ、ソノ豫後モ亦著シク不良ニシテ、治療日數ノ長キハ勿論、終ニハ治癒ヲ待タズシテ診療ヲ中止スルモノ少ナカラズ。

第七 結 論

1. 滿洲地方ニ於ケル中國人ノ骨及關節結核ノ罹患率ハ外來患者數ノ7.8%ナリ。
2. 性別ニヨル罹患率ハ結核患者832名中男597名、即結核患者數ノ71.8%ニシテ、女ハ235名、即結核患者數ノ28.2%ヲ示シ、男女ノ比ハ2.5對1ナリ。然レドモ男女各外來患者數ニ對スル結核患者數ノ百分率ハ男6.6%ニシテ、女14.5%ナリ。

3. 骨, 關節結核ハ中國人ニ於テハ21—30歳ニ最モ多ク, 結核患者832名中306名, 卽結核患者ノ36.7%ナリ。

4. 骨結核中最モ多キハ脊椎_Lカリエス¹ニシテ, 骨結核患者474名中218名, 卽ソノ45.9%ヲ示シ, 關節結核中最モ多キハ足關節結核ニシテ, 關節結核患者358名中99名, 卽ソノ27.6%ナリ。

5. 脊椎骨中最モ多キハ腰椎骨ニシテ, 脊椎_Lカリエス¹218名中腰椎_Lカリエス¹98名卽ソノ44.9%ニ當リ, コレニ次イデハ胸椎_Lカリエス¹多シ。

6. 骨及關節結核患者ハ4.5.7月ノ候ニ多シ。

Literaturverzeichnis.

- 1) **Alfer**; Beiträge z. kl. Chir. Bd. VIII S. 277, 1892.
- 2) **Billroth u. Menzel**; Arch. f. kl. Chir. Bd. XII, S. 341, 1871.
- 3) **Geigel**; Deut. Arch. f. kl. Medicin Bd. XXV, S. 259, 1880.
- 4) **Jaffé**; Deut. Zeitschr. f. Chir. Bd. XVIII, S. 432, 1883.
- 5) **König**; Deut. Zeitschr. f. Chir. Bd. XI, S. 531, 1879.
- 6) **Derselbe**; Arch. f. kl. Chir. Bd. XXV, S. 580, 1880.
- 7) **Derselbe**; Berl. kl. Wochenschr. 8. Jahrg. No. 20. S. 229, 1871.
- 8) **Krause**; Deut. Chir. Lief. 28, A. 1899.
- 9) **三輪徳寛**; 日本外科学會雜誌, 第三回.
- 10) **武藤多作**; 滿洲醫學雜誌, 第十一卷, 第四號, 第五二一頁, 昭和四年.
- 11) **Naegeli**; Virchow's Archiv. Bd. 160, 2. Heft. S. 426, 1900.
- 12) **Rovsing**; Archiv f. kl. Chir. Bd. 53, S. 620, 1896.
- 13) **住田正雄**; 日本外科学會雜誌, 第十五回, 第二號, 第一頁.
- 14) **田代義徳**; 日本外科学會雜誌, 第十五回, 第二號, 第一頁.
- 15) **寺本於菟男**; 滿洲醫學雜誌, 第七卷, 第一號, 第五五頁, 昭和二年.

Ueber die Knochen -u. Gelenktuberkulose der Chinesen

Von

Dr. Mat. Hashimoto.

[Aus der chirurgischen Abteilung der mandschurischen medizinischen Hochschule
zu Mukden. (Vorstand, Prof. Dr. T. Matsui).]

Referent hat während der letzten 10 Jahre die Knochen- und Gelenktuberkulose der Chinesen in unserer chirurgischen Abteilung statistisch untersucht.

1) In den letzten 10 Jahren besuchten 10652 chinesische Patienten unsere Poliklinik, und bei diesen wurden 832 (7.8 %) Fälle von Knochen- und Gelenktuberkulose beobachtet.

2) Dabei waren 597 Männer und 235 Frauen; das Verhältnis der tuberkulosen erkrankten Männer und Frauen ist 2.5:1.

3) Knochen- und Gelenktuberkulose der Chinesen sind am häufigsten zwischen dem 21. und 30. Jahre. In diesen Jahren konnten 306 (36.7 %) Fälle von 832

Kranken aller Jahrgänge beobachtet werden.

4) Die Tuberkulose tritt am häufigsten auf am Wirbel der Knochen und im Fussgelenk. Es gibt 218 mal (45.9 %) Wirbelariesen bei 474 Fällen von Knochentuberkulose und 99 mal (27.6 %) Fussgelenktuberkulose bei 358 Fällen von Gelenktuberkulose.

5) Die Tuberkulose wurde am häufigsten 98 Fälle von 218 Fällen von Wirbelkariesen am Lendenteil und nächst dem am Brustteil beobachtet.

6) In unserer Poliklinik sind die chinesischen Patienten mit Knochen- und Gelenktuberkulose am häufigsten im April, Mai und Juli.